

フォーラム・セミナー報告

ランチョンセミナーを開催しました

◆第24回・25回ランチョンセミナー

(担当: 千葉美保子 教育開発支援センター研究員)

2017年10月18日・20日に、ランチョンセミナー「知って得する評価のいろは(1)～ルーブリックを体験してみよう～」を開催しました。

今回のランチョンセミナーでは、学習成果を可視化する評価ツールとして注目されている、ルーブリック評価に関するミニレクチャーと体験ワークを実施しました。

まず、ルーブリック評価の基礎的な情報や活用事例を紹介後、ルーブリックの模擬体験として、同じ課題で作成された3種類のレポートを実際にルーブリックで評価し、その評価をペア・全体で共有するワークを行いました。

参加者からは「ルーブリックについて深く学

べた」という意見のほか、「自分の考えを見直す機会となった」「『自身の評価』を評価することができた」など、参加者同士で意見交換を行うことで、リフレクションの機会ともしていただくことができました。

また、「このテーマでずっと掘り下げたい」という声も寄せられました。今後もルーブリックをテーマとしたセミナーを継続的に実施してまいりますと考えております。

(教育推進部 千葉美保子)

日時: 2017年10月18日(水)・10月20日(金) 12:30～13:30
場所: 第2学舎1号館3階 A304・A303



ランチョンセミナーの様子

◆第26回ランチョンセミナー

(担当: 紺田広明 教育開発支援センター研究員)

10月26日(木)に開催したランチョンセミナーでは、「卒業生は満足しているのか!?～教学IRによる卒業時調査から見えてくる学生の姿～」と題して行いました。教職員11名の方々にご参加頂き、卒業時に実施している学生調査の結果から、学生の満足度について教職員で考えることに焦点を当てました。近年、教育の質保証が求められており、大学生として、何を学び、何を得たのかに関

心が高まっています。教職員としては、指導や支援した学生達が、どのような体験を経て、どういった力をつけて卒業していくのか、気になる場所であると思います。卒業時調査の結果から見えてくる学生達は、大学満足度95.0%、学部満足度94.5%(満足している+やや満足している)という高い満足度を示していました。また、専門教育や授業方法、相談支援等が満足度に関連している

日時: 2017年10月26日(木) 12:30～13:30
場所: 第2学舎2号館5階 C501

とが伺えました。セミナーではこれらを共有した後、ご質問を頂く時間となりました。学部ごとの違いはあるのか、どのような点が他の大学とは異なるのか、等のご質問を頂き理解が深まりました。本セミナーでの情報共有により、これからの関大の教育について一緒に考えていく一つのきっかけとなったのではないかと考えております。

(教育推進部 紺田広明)

日常的FD懇話会を開催しました

◆第16回日常的FD懇話会

(担当: 多田泰紘 ライティングラボ アカデミック・アドバイザー/教育開発支援センター研究員)

2017年11月21日(火)に第16回日常的FD懇話会「ご利用は建設的に! 学生のライティング学習支援のニーズと学びを促進する支援体制の構築」を開催しました。今回は、関西大学ライティングラボが行っている学部学生のライティング(レポートや卒論などの文章作成)に関する学習支援業務とそのニーズ、課題について教職員の方に知っていただくとともに、自律的な書き手を育てるための学習支援について議論しました。議論の中で、「読み手を意識した」書き方や、ラボと教員との連携のモデルケースを紹介する、といった

ご意見・ご提案を頂きました。私も議論に参加し、新たな視点で学習支援を考えることができました。

今回の懇話会を通じて、ライティング学習を促進するためには、教職員間の良い意味での遠慮がない意見・提案が有意義であることを改めて実感しました。懇話会で頂いたご意見・ご提案を今後のライティングラボの学習支援に生かしていきます。

日時: 2017年11月21日(火) 16:30～17:30
場所: 第2学舎2号館4階 C401



日常的FD懇話会の様子

■問い合わせ先 (ライティングラボ利用ガイドンス・授業連携についてのお問い合わせ)

関西大学ライティングラボ (教育開発支援センター内)

URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/index.html>Mail: wlabo@ml.kandai.jp

担当: 多田 (内線 3801)

Learning Caféを開催しました

◆第1回Learning Café

(担当：佐々木知彦 教育開発支援センター研究員)

アカデミックスキルの基礎を身につけるミニワークショップ「ラーニングcafé」。秋学期も「文章を読むコツー速読と要約」からスタートしました。繰り返し開催してきたテーマですが、今回はより実践的なトレーニングを取り入れました。その結果すべての参加者が、ワークの序盤と終盤では同じ時間で読める量が増えていることを確認できました。アンケートでも「内容に無駄がなく、ためになることばかりだった。

時間も短くて集中できる。雰囲気が楽でよい」との声があり、好評のうちに終了することができました。

今回は日本語の文章を扱いましたが、英語の速読についても取り上げてほしいとの要望もあり、検討中です。今後もさまざまなテーマで展開して参りますのでご期待下さい。

(教育推進部 佐々木知彦)

日時：2017年10月11日(水) 14：50～15：50
場所：凜風館コラボレーションコモンズ



Learning Caféの様子(10月11日)

◆第2回Learning Café

(担当：千葉美保子 教育開発支援センター研究員)

2017年10月18日に、Learning Café「明日の講義から使える!『ノートの取り方』のコツ」を開催しました。

今回のLearning Caféでは、大学での学びに重要なスキルである、ノートテイキングをテーマとしました。

まず、高校の授業と大学の講義の違いを確認した上で、講師から具体例を提示しながらノートの書き方についてのミニレクチャーを行いました。その後、参加者は5分程度のミニ講

義を聴き、実際にノートを取る作業にチャレンジしました。

春学期のLearning Caféでは参加者の多くが1年生でしたが、今回は上級生の参加が目立ちました。参加者からは、「板書を写すだけではノートを見直してもわからないが多かったが、疑問点を書き留めることで、忘れ辛かった」「コーネル式ノートを友達に進める時にどういう風に話せば伝わるかということも教えてもらった」など、今後の講義へ向けた前

日時：2017年10月18日(水) 14：50～15：50
場所：凜風館コラボレーションコモンズ



Learning Caféの様子(10月18日)

◆第3回Learning Café

(担当：多田泰紘 教育開発支援センター研究員)

2017年10月25日(水)にLearning Café「プレゼンの基礎-口頭発表のコツ-」を開催しました。授業や研究発表、面接など学生生活の様々な場面で必要になる「プレゼン発表」について、聞き手にも話し手にもやさしいプレゼンの作り方、発表方法のレクチャーとワークを行いました。

まず簡単なレクチャーを行ったあと、参加学生に話しにくいスライドと話しやすいスライドの違いを体験してもらいました。学生はいきなり話すことに戸惑っていましたが、緊張しても上手

く話せるスライドについて考えることができたのではないのでしょうか。次に、講師である私がレクチャー内で使った、聞き手を会話に引き込む話し方をクイズとして出題し、参加者に当ててもらいました。クイズを通じて、自己紹介や質問の誘導を取り入れた聞き手を巻き込む口頭発表のコツを紹介しました。話し手と聞き手の会話を促すプレゼン発表がもつ、やさしさを使いやすさと心強さをお伝えできたと思います。

今回のLearning Caféが、学生にとって話しやすい口頭発表につながれば嬉しい思い

日時：2017年10月25日(水) 14：50～15：50
場所：凜風館コラボレーションコモンズ



Learning Caféの様子(10月25日)

書籍紹介

『教育の方法と技術—学びを育てる教室の心理学—』(2017年10月にナカニシヤ出版より発行)

本書は9名の大学の研究者と5名の小・中・高等学校教諭や学校心理士・臨床心理士による、研究と教育現場の合作であることに特徴を持つ。教えること・学ぶことに関わる学習観や教授・指導観、知識をどうみるかという知識観を概観した上で、具体的な教えることの工夫・その技術、特に学びを育てる教授法としてのアクティブラーニング、学びを育てる環境としてのラーニ

ングコモンズ等の設計の重要性に触れ、ICTを活用した授業の基本的哲学、具体的な活用スタイルの紹介がされている。またそうした教育活動の振り返りとしての教育評価の方法、特に質的な評価の在り方も述べ、本書を手にする者がすぐにも教育研究に取り組めるよう質的研究法の概説も行っている。これらの章の合間にコラムで、現場の教師・臨床心理士等の実践も生々

しく紹介している。

教職科目の教育方法・技術論のテキストとして編纂したものであるが、教育の質の向上に関心を持たれるすべての方の目に触れていただきたいと願っています。

田中俊也

(前・教育開発支援センター長：文学部教授)

本書は、田中俊也前教育開発支援センター長に加え、教育推進部森房子教授および岩崎千晶准教授が執筆者となっております。

